



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

# 学校だより 11月

令和5年11月1日

荒川区立

嵯田小学校

校長 津田 利枝

## 「気付く」ふれあい月間に

生活指導主幹 飯塚 宏美

9月末に運動会が実施され、運動会では赤組と白組の見事な戦いが繰り広げられました。運動会前日、ある6年生の児童が、同じ学年の児童に声を掛ける場面を見かけました。

「おはよう！明日は運動会だな。一緒に頑張ろうな。」

少し距離があったにもかかわらず、走って近づき、友達に声をかける心の温かさに触れた嬉しい出来事でした。

東京都では毎年6月、11月をふれあい（いじめ防止強化）月間として、いじめや不登校、暴力などの問題行動を未然に防止し、子供たちの健全育成を目指した取り組みを行っています。10月23日（月）の全校朝会では、11月のふれあい月間に向けて3つのことを話しました。キーワードは「気付く」です。

### ①自分のしていることに「気付く」

自分が友達を傷つける言動をしていないか振り返ろう

### ②自分が嫌な思いをしていることに「気付く」

自分の本当の気持ちに「気付く」ことを大切にしよう

### ③友達の不安や辛さに「気付く」

嫌な思いや辛い思いをしている友達に「気付く」自分でいよう

という3つの内容です。本校ではふれあい月間に合わせて10月末から11月初めにかけて「ともだちアンケート」を全クラスで実施します。アンケートの回答や最近の様子で気になった児童には、担任が詳しく様子を聞いたり、場合によっては問題を解決したりしていきます。

生徒指導（生活指導）と言うと、大きな問題が起きてから対応する、あるいは、困難な課題に対して長期に渡って取り組むというイメージがあるかと思います。しかし、問題が起きてからどう対応するかという以上に、どうすれば起きないようにするのかを考えることがより重要だと考えています。そのため、本校では、未然防止・早期発見に重点を置いています。日頃から児童の様子をよく観察し、気になるところがあれば声を掛け、職員同士で情報を共有しています。普段から子供たちと触れ合い、小さな変化に「気付く」ことが、大きなトラブルや悩みを防止すると考えているからです。また、子供たちに自己肯定感（自分を肯定する気持ち）や自己有用感（自分が人の役に立っているという気持ち）が育っていると、問題行動が起きにくいと言われています。本校では児童の主体性を生かした活動を推進したり、日頃からクラスの仲間同士で認め合える関係づくりを積極的に行ったりしています。11月の展覧会でも、自分・友達・他学年の作品の良さを見つけて交流する場面を設けています。6年生の展覧会プロジェクトや代表委員会の創意工夫の詰まった取り組みからも、自己有用感の高まりが感じられます。展覧会でも、自分の良さ・友達の良さに「気付く」ことを大切にしていきます。

今後も家庭と学校と地域が連携して、触れ合いを大切にしていきたいと思います。今後ともご協力・ご支援よろしく申し上げます。